北海道立水産孵化場での思い出（札幌中の島時代）

粟倉輝彦

私は昭和 36 年 11 月から平成 6 年５月までの 32 年６ヶ月の間、水産孵化場に勤務しました。道職員としては、その前に道立室蘭水族館の 3 年 7 ヶ月が加わりますので、約 36 年間、お世話になったことになります。調査課生物係、水質係、森支場、調査研究部魚病科、増毛支場と異動しましたが、その内の約 20 年間が中の島勤務でした。

私が室蘭水族館から転勤した昭和 36 年 11 月当時は、水産孵化場の場長はさけます・ふ化場長が兼務しており、調査課は、故江口弘さんが課長で、大屋善延さん、故吉住喜好さん、長内稔さん、寺尾俊郎さんおよび田口キヨさんの６名に小生が加わって７名体制になりました。当時、中央区の南 6 条西 16 丁目に一棟二戸（1 階と 2 階に１世帯が住む）の公宅があり、当初は事業課の米川年三さん、後に長内稔さんおよびさけ・ますふ化場の橋本進さんと入居しましたが、中の島には自転車で通いました。この公宅に住んでいる頃、長男と長女が生まれ、しばらくして中の島小学校の近くにあった公宅に移りましたが、当時の冬の暖房は石炭ストーブが普通の時代でしたので、引越しの時、石炭を運ぶのが大変であった思い出があります。

調査課の実験室と執務室は、本館と呼んでいた鉄筋コンクリート 2 階建の庁舎の左側の渡り廊下をくぐり抜けた所にあり、これは昭和 11 年に孵化場が千歳から移転した時から使用されていた古い建物でした。物置になって使用されていませんでしたが、向かい側に温室がありました。なお、本館と呼んでいた建物は、昭和 28 年に火災により焼失したために建設されたものでしたが、2 階にさけ・ますふ化場、1 階に水産孵化場と分かれて入っていました。別館の調査課の方は、さけ・ますふ化場と水産孵化場が一緒になっており、さけ・ますふ化場の方には、故佐野誠三さん、故西野一彦さん、故徳井利信さん、疋田豊彦さん、故石田昭夫さん、黒萩尚さん、小林哲夫さんおよび故阿部進一さんなどがおられましたが、間もなく、さけ・ますふ化場調査課の庁舎が完成して、古い庁舎は水産孵化場の職員だけになりました。

昭和 49 年の機構改革により、調査課は調査研究部となり、私は水質科から独立して、新設された魚病科の初代科長になりました。それから昭和 59 年に増毛支場に転勤するまでの 10 年間、魚病科長を担当しましたが、これは中ノ島に勤務した 20 年の半分に当たり、大変充実した時期であったと感謝しております。この当時は、水質科と環境生物科は従来の実験室と執務室に残り、育種餌料科と魚病科は昔、孵化室として使用していた奥の建物に移りましたが、水質科には柳瀬雅子さん、伊藤富子さん、今田和史さん、環境生物科に阿刀田光紹さん、育種餌料科に岡田鳳ニさん、魚病科に長井真美さん、坂井勝信さんなどが新しく加わりました。

写真 1　本館（裏のテニスコートから見る）

写真 2　渡り廊下の向こうに見える調査課別館

調査課の旧館から本館までは、70mくらい離れており、総務課や事業課に行くため、良く歩きました。総務課に勤務していたアルバイトの女性が、本館から別館へ来る途中に、コンタクトレンズを落としたというので、皆で探しましたが、当日雨も降っており、暗くなってきましたので、殆ど諦めかけた時、誰かが見つけて喜んだことがありました。暗くなって、懐中電

灯で探したのが良かったようです。

育種餌料科と魚病科が入っていた実験室のすぐ側に、枯れたハルニレの巨木がありましたが、実験室から5m 程度しか離れていなかったため、強風で倒れたりしたら建物に損害が出る心配がありましたので、業者に来てもらって伐採したことがありました。

恵庭に移転してからの魚病科の実験室は素晴らしく立派になりましたが、中の島時代の実験室は、大変貧弱でした。しかし、長井さんや坂井さんと工夫をしながら、仕事をしたことが懐かしく思い出されます。恵庭の実験室については、昭和５4～55 年に海外研修で勉強したことを生かして、設備などの検討に加わりましたが、移転後新しい実験室を使用することもなく、昭和 59 年 5 月には増毛支場に転勤になりました。

調査研究部が入っていた別館の裏側は草むらになっており、昼時にはネットを張って、ゴルフの打ちっぱなしをやる人もいました。この草むらでは良く「ジンギスカン・パーティ」をやりましたが、水産孵化場の名物になっていました。

海外研修で、カナダ、アメリカおよびヨーロッパのふ化場や養殖場を見学する機会がありましたが、「ふ化場」あるいは「養殖場」という名称のところで働いている皆さんは、現場業務だけを行う人達で、水産孵化場のように、試験研究も行なっているところは皆無

写真 3　伐採されるハルニレと魚病科実験室

写真 4　伐採後老木と記念撮影（昭和 52 年頃）

写真 5　裏庭でのジンギスカン・パーティ（昭和 42 年頃）

写真 6　裏庭でのジンギスカン・パーティ（昭和 57 年頃）

でした。研修先は魚病研究を行なっている国立研究機関や大学を選びましたが、どの研修先でも小生を研究者として迎え入れてくれました。これまでの Hokkaido Fish Hatchery は世界でも珍しい試験研究機関であったのだと思います。それには、これまでの孵化場の歴史が関っていたのではないでしょうか。戦後、昭和 21 年に、「水産孵化場試験報告 1 号・Scientific Reports of the Hokkaido Fish Hatchery Vol.1」を出版し、これは平成 21 年度の第 64 号まで続いています。試験研究を大切にしようとする基本的な考え方が戦後間もない時期から続いていたように思います。

このたび変更になる新しい名称の「さけます・内水面水産試験場」は、近年の「水産孵化場」がやってきた業務を的確に表示していると思います。新しい名称の元で、今後の益々のご発展をご祈念申し上げます。

（あわくら　てるひこ：元場長）